



1 沿道の声援を受け、勢いよくスタートする男子1区の選手たち 2 スキー部所属ながら力走を見せる猪苗代高校3年生の星野一歩選手 3 男子総合3位でゴールする小檜山選手

高校生ランナーが力走

県高等学校駅伝競走大会開催

全国大会の舞台「都大路」出場を懸けた男子第62回、女子第35回県高等学校駅伝競走大会は10月26日、カメリーナをスタート・フィニッシュとする男子7区間42.195^{キロ}、女子5区間21.0975^{キロ}で争われました。大会には男子35校、女子22校が出場し、男子は学法石川高校が2時間7分17秒で7年連続9度目の優勝。女子も学法石川高校が1時間11分41秒で2年連続4度目の優勝を果たしました。学法石川高校は、男女とも他校を寄せ付けない盤石のレース運びで全国大会への切符を手にしました。

大会には猪苗代高校や町内中学校出身の選手も出場しました。猪苗代高校は、昨年に引き続き陸上同好会やスキー部などの生徒による特設チームで大会に臨み、男子が34位、女子が22位という結果となりました。

また、猪苗代中学校出身で会津学鳳高校3年生の小檜山利輝選手は男子7区にアンカーとして出場。区間3位の力走を見せ、総合でも3位でゴールしました。

懸命に走る選手の姿に、応援に駆けつけた多くの町民や保護者らからは盛んな声援が送られました。



1 親子の部(父母と小学1～3年生、2キロ)をスタートする選手 2 ハーフに出場した福島ホープスの宮之原健選手 3 親子の部を走るゲストラナーの谷川さん



Pick Up

今月のイベント

ゲレンデ逆走マラソン 「走塁のスペシャリスト」 鈴木尚広さんが出場

猪苗代スキー場の斜面を駆け上がる鈴木さん(左)



ハーフマラソンの部で優勝した志村さん

町内の6スキー場などをつくる「GAMBARUZO!」ふるしま実行委員会」が主催する「ゲレンデ逆走マラソン」の今季最終戦は10月21日、猪苗代スキー場で開かれました。

今季最終戦となった本大会には、県内外から約260人がエントリーし、21・0975^{キロ}のハーフマラソン、10・549^{キロ}のクォーター、5^{キロ}の3部門で争われました。このうち、5^{キロ}の部に元プロ野球選手で「走塁のスペシャリスト」として知られる鈴木尚広さんがゲスト出場し、参加者と交流を深めながら、磐梯山の逆走レースに挑みました。

ハーフマラソンの部で優勝した仙台市の志村史雄さんは「今季から参加して今日で4回目の出場です。コースはともきつかったです、とても楽しい大会なのでまた参加したいです」と感想を話しました。

雨の中で健脚を競う

猪苗代湖ハーフマラソン 2017

猪苗代湖ハーフマラソン 2017 は10月22日、カメリーナをスタート・フィニッシュとする日本陸連公認コースで開かれ、2079人のランナーがあいにくの雨の中で健脚を競いました。

大会は町などがつくる実行委員会が主催。東日本震災と東京電力福島第一原発事故からの復興を目指して平成23年から開催され、今年で7回目となりました。男女年齢別のハーフ11部門と男女10^{キロ}、男女5^{キロ}、中学生男女、小学生男女、親子の計20部門が行われました。

21.0975^{キロ}のハーフ部門では、男子は男子B(30歳～39歳)で早坂光司選手(仙台市)が1時間9分42秒の大会新記録で2年連続3度目の総合優勝。女子は女子Bの桑原絵里選手(郡山市)が1時間25分17秒で女子総合5連覇を達成しました。地元勢では、本町出身の五十嵐修一選手(明治学院大学)がハーフ男子Aで優勝。5^{キロ}中学生男子では猪苗代中学校1年生の大橋清陽選手が優勝を飾るなど、地元選手が活躍しました。

また、ハーフ部門などにはマラソン選手の谷川真理さんが出場し、市民ランナーと交流を深めました。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Nov.2017
11
No.685

今月の表紙



【撮影日】 10月22日
【撮影場所】 カメリーナ脇

猪苗代ハーフマラソン 2017 でハーフの部をスタートする選手たち。当日はあいにくの雨となりましたが、選手たちは自己ベスト目指して健脚を競いました。(関連3ページ)

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 県高校駅伝大会／猪苗代湖ハーフマラソン 2017
- 04 【写真特集】こども園・保育所運動会
- 06 平成30年度児童・園児募集
- 08 平成29年度上半期財政状況
- 10 まちのわだい
- 14 笑顔でこんにちは／スクールトピックスほか
- 16 いなわしろタウンページ
- 20 暮らしの情報広場
- 22 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー